

「ぼく、ねりまくに生まれてよかつたな」

練馬東小学校二年 有野直紀

ぼくは、ねりまくに生まれてよかつたなあと、思います。それは、ねりまくにはとうきようにはめずらしいものがたくさんあるからです。

たとえば、む人やさいはんばいしよ。ぼくのおかあさんは、のうかの人が朝、はたけからとつてきたきゆうりや玉ねぎを一ふくろ百円でかってきます。とりたてのやさいはやわらかくておいしいです。

それからたとえば、やたいのおでんやさん。おでんやのおじいさんは、五十年まえから毎日おでんをうつて歩いてるそうです。おじいさんは、「おまけだよ。」「おいしいよ。」と  
言つて、あじのしみたたまごやがんもを入れ

てくれます。

そしてたとえば、ふじ山。ふゆの晴れた日に、えきまえのこうさ点でふじ山が見えます。青空にうかぶ白い山や、夕やけの空にしずんでいくむらさき色の山は、とてもきれいです。ふじ山が見えた日は、なんだかとくをした気分になります。

みらいのねりまくにも、うつくしいけ色や、りっぱなはたけがたくさんあるといいと思います。そして、おでんやさんのようなやさしい人がすんでいてほしいです。そのためにぼくは、みんなでくるまをへらして、みどりをいっぱいにしたほうがいいと思います。のうかの人のお手つだいもみんなでしたいです。そしていつか、ねりまくに大すきなかぶと虫がやせいでくらする森をつくりたいです。

ぼくは、ねりまくがとうきようで一ばんすてきな町になるといいなと思います。